

令和元年度 上伊那圏地域自立支援協議会議事録

会 議	名称	第一回自立支援協議会全体会		参 加 者 数	64 人	会 場	伊那市福祉まちづくりセンター 大会議室
	日時	令和元年 6月 13日 (木) 9:30 ~ 10:30					
主 題 マ	<p>1 令和元年度体制に関して</p> <p>2 平成30年度活動報告及び令和元年度活動計画に関して</p> <p>3 地域生活支援拠点に関して</p>						
<p>開会に先立ち…(『きらりあ』田中所長より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会設置運営要綱第5条に基づき、運営委員会より自立支援協議会の会長を伊那市社会福祉課・久保田課長、副会長を西駒郷・北嶋部長に依頼したい。全体会で承認、確認してほしい。 →了承される。以降、司会進行は北嶋副会長。 <p>挨拶 久保田会長より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回目の全体会ということで、部会や連絡会を整備した中で課題は尽きないと思うが、少しずつでも進めていければと考えている。活発な意見交換をお願いしたい。 ・伊那市社協の建物について、老朽化により来年度より建替えに入る。それに伴い駐車場が不足する可能性が高いので承知おき頂きたい。 <p>会議事項</p> <p>(1)今年度の体制について(『きらりあ』藤原専門幹より)</p> <p>訂正・伊那市社協 電話番号 ☎72-4477に変更。 組織図(案) ×『平成31年度』 → ○『令和元年』に変更。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会 4行目以降を追加 ・新たに『地域生活支援拠点ワーキンググループ』を追加 → より課題解決に取り組んでいく為に変更。 ・療育等連絡会 → 昨年度は部会活動をしていた。 ・精神障がい者等地域生活部会 精神障がい者に限定せず広義的な意味を含めて『等』という言葉が追加になる。 ・GH部会がなくなる。主になって活動していた防災関係に関しては、自立支援協議会が引継ぐ。 <p>(2)平成30年度活動報告及び令和元年度活動計画について(各部会より説明)</p> <p>1) 精神障がい者等地域生活部会(P9～10 春日相談支援専門員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●昨年度4回部会開催。 ・“顔の見える関係作り”を意識して活動。 ・ピアサポーターの活用、地域定着についての講演。出前講座は今年度も継続。 ●今年度の主な活動計画 ・拠点整備の体験の場の確保 → 部会を中心に日中活動、GH等に関しても部会が中心に。 ・精神障がい者地域包括ケアシステム → 多職種の方にも部会に参加して頂き、圏域内で協力体制を作る。 <p>2) 療育部会(P6～7 伊那北小学校・塩入教諭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●昨年度4回部会開催。 ・成長ダイアリー改定(引き続き見直しを行なっていく)。 ●今年度の主な活動計画 ・ワーキンググループを設置し、信大付属HPの本田教授のスーパーバイズを受けながら地域分析を行ない、地域の支援力の向上を目指す。 <p>3) 就業支援部会(P7～9 伊那養護学校・福澤教諭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●昨年度5回実施 ・定着支援を重点的に活動。実際に企業関係者にも参加して頂き、シンポジウムや事例検討等を開催。 ・就労アセスメントに関して、少しずつ議論を開始している。 ●今年度の主な活動計画 ・ネットワーク作りと、昨年度に引き続き大きな柱として『定着支援』と『就労アセスメント』を重点的に行なっていきたい。 ・就労アセスメントに関して、圏域ルールの見直しについて部会内で小委員会等を立ち上げて、より具体的な活動報告ができるようにしていきたい。今年度より伊那養護学校でも就労アセスメントに関して新たな動きを検討、試行していく予定。 							

4) GH部会 (P10～11 事務局(『きらりあ』)・守屋就労支援ワーカー)

●昨年度4回実施

- ①代表を対象にアンケート実施。圏域の現状と課題を把握する。
- ②防災関係(講演、世話人研修)
- ③世話人研修(講演)
- ④今後の支援の方向性を検討

・課題として…

- ①支援者の高齢化対策…相談支援専門員部会に引継
- ②世話人の人材確保…人材育成部会に引継(福祉分野全体に関わってくる)。世話人研修も人材育成部会が担当。
- ③サテライト型の解説、GH設置したいがどのくらいニーズがあるか…
→拠点整備も含めて市町村と支援機関が情報共有できるようなツール作りを。
- ④防災関係 →GHに限らず市町村、全域の課題。今後は運営委員会で対応。

※他の圏域ではないと言われていたくらい特殊な専門部会だったが、一定の役割を果たしたということで昨期で終了。

5) 重心・要医療的ケア部会 (P11～13 『かいご家』・松本管理者)

●昨年度4回会議開催。他にも医療機関訪問を4回と施設見学を実施。

- ・重心の方たちの受入の拡大を依頼。現状を把握し意見交換を実施。活動を通じて受入拡大にも繋がったし、病院からも前向きな意見を頂くことができた。
- ・伊那養護学校『つくしグループ』との懇談会に参加。意見交換を行なう。

●今年度の主な活動計画

- ・引き続き医療機関の訪問等を行ない経営の拡大を依頼していく。
- ・医療的ケア児等コーディネーター連絡会を立ち上げる。
- ・『上伊那自立支援協議会への意見書』参照 …課題に関しては今後運営委員会で検討。

6) 権利擁護部会 (P13～14 伊那市社協成年後見センター・矢澤様)

●昨年度4回開催。

- ・『事例集のまとめ』と『触法障がい者への支援(入口支援)』(平成29年度より継続)を中心に活動。

●今年度の主な活動計画

- ・昨年度に引き続き『触法障がい者への支援』を
- ・事例集…ワーキンググループを中心に今年度内に形にしたい。
- ・差別解消委員会…設置はされているが昨年度まで主だった動きはなかった。今年度より権利擁護部会として進めていく予定。何か柱を決めなくてはいけないと思っている。

7) 相談支援専門員連絡会 (P14～16 ぶらっと相談支援センター・菅野相談支援専門員)

●昨年度9回開催(ほぼ毎月のペースで)。

- ・講師を招いての学習会、グループスーパービジョンを用いての事例検討。
- ・同じような立場で勤務しているケアマネージャーとの連携や情報を共有。

●今年度の主な活動計画

- ・ほぼ毎月の開催を予定しているが、他部会の共同開催も視野に入れて活動したい。さしあたって人材育成部会の研修会へ一緒に参加したい。
- ・今年度一回目の学習会を7月に予定。そこでお互いの顔合わせや事務的なものの説明、今まで出てきた意見等を掘り下げて課題の附属する事例検討等を行ない、圏域の課題として提案できれば…。
9月(予定)…放ディとの意見交換会 11月(予定)…ケアマネとの意見交換会
- ・閉鎖した事業所があったり、相談支援専門員も異動や兼務等で顔ぶれがだいぶ変わってきている。課題や具体的事例等、いかに皆さんで協働しながら作り上げていくという難しさがある。関係機関の方たちには相談支援専門員を育ててほしい。

8) 人材育成推進連絡会 (P16～17 伊那市社協・小嶋係長)

●昨年度2回開催。

- ・今年度より研修の体制が変更になる。その準備段階の活動を行なった。
- ・相談支援専門員やサービス管理責任者のフォローアップ研修を開催。

●今年度の主な活動計画

- ・今年度より圏域ごとで相談支援専門員初任者研修のインターバル研修を実施。併せてサービス管理責任者初任者研修のインターバル研修も行なっていく(それぞれ2回)。その中で情報共有やフォローをしていく。
- ・圏域全体の質の向上を目的にリーダー研修も行なっていく。
- ・強度行動障がいに関する研修も実施予定(シリーズ化して3回)。

9) 市町村連絡会 (P17～18 伊那市福祉課・伊藤係長)

●昨年度…8市町村担当者会議、実務担当者会議をそれぞれ5回開催。

- ・地域生活拠点等事業実施要綱作成(契約書については今年度作成)。
- ・初の試みとして伊那養護学校と市町村間で懇談を実施。

●今年度の主な活動計画

- ・昨年度に引き続き、必要に応じて随時連絡会を開催
- ・拠点整備緊急短期入所に関して、契約書の作成を行なう。
- ・課題に応じて、各関係団体との情報交換の機会を設ける。

(3)地域生活支援拠点の整備について (資料1参照…説明 事務局『きらりあ』志賀相談支援専門員)

- ・地域生活支援拠点整備の一環として、障がい者の重度化や高齢化、親亡き後を見据え、多重支援の為の機能として、障がい者の生活を地域全体で支えていく体制を作っていくこと目的とする。
- ・上伊那圏域の地域のあった資源を活用しながら整備を進めていく。

●理念 『～いづれ入所ではなく、地域で暮らし続ける為に～』

●運営方針

『～今ある資源を最大限に活かし、圏域と強みと課題を見極める。また地域生活支援拠点整備の取り組みを通し、上伊那

圏域の全体の相談支援強化を目指す～』

◎『5つの柱』…①相談 ②緊急時の受入、対応 ③体験の機会の場合 ④専門的人材の確保、養成 ⑤地域の体制作り

※『5つの柱』を運営委員会で3つのチームに分けて、昨年の取組みを報告。

・Aチーム…緊急S.Sが必要な方のリストアップ197名。

※『緊急』の定義→主たる介護者が疾病や障がい等によって1年以内に状況の変化が予想され、緊急にS.Sを利用する可能性が有る。重度心身障がい、強度行動障がい含む

●今後の取り組み課題と方向性

- ・台帳の管理方法の検討→福祉サービスを利用している方については相談支援専門員と市町村を中心に、サービスを利用していない方で市町村が把握している方については、市町村と『きらりあ』で個別に対応していく。5月末に各市町村に出向き説明している。

4, その他

●伊那保健福祉事務所・鳥羽係長より

- ・入所施設(西駒郷を除く)、GHの空き状況情報提供に関して、空き状況等を定期的に公表していくようなシステムを上伊那圏域に作ったらどうか？
- ・現在長野圏域では実施されているが、上伊那バージョンのものを検討したい。

○行なっていた理由

→長野圏域には5つの自立支援協議会がある。社会資源が長野市に集中している為、他の圏域の方に情報提供していく必要があった。

●『きらりあ』松田サポマネより

- ・上伊那圏域福祉フォーラムに関して
今年度は『防災』をテーマに11月に開催予定。内容等詳細については後日検討。

◎全体を通して質疑応答

・伊那市手をつなぐ親の会・福澤様より

「GHの空き情報について、実際どのくらい公開されているのか」？

→主に自立支援協議会事務局や相談支援関係者、施設が対象だが、希望があれば都度情報提示していた。

個人的に利用したいということで閲覧できたということか？

→希望すれば相談支援関係者を通じて提示するという形であった。

“見える化”は素晴らしいと思うので、ぜひ上伊那でも実施してほしい。

※賛成多数で議題は承認される。

◎引き続き、学習会に入る。

『圏域にあった拠点整備について』

講師:社会福祉法人高水福祉会 支援部統括部長 野口直樹氏

5, 閉会

まとめ

今年度の体制変更に関して、昨年度の各部会、連絡会の活動報告及び今年度の活動計画、地域生活支援拠点の整備に関して、全体会にて承認される。

次回

(記録者)